

秦野市子ども・子育て会議（令和6年度 第1回）

会議記録（要点筆記）			
委員会名		秦野市子ども・子育て会議(令和6年度第1回)	
日時	令和6年7月26日（金） 13：45～15：20	場所	秦野市役所本庁舎3階 3A会議室
出席者	〔委員氏名〕〔所属団体等〕（☆）…職員交代による新規委嘱 小林 正稔： しらかばこども家庭支援ステーション副所長（会長） 石井 千昭： 元末広小学校・北中学校長（副会長） 梶山 孝夫： 秦野市社会福祉協議会 金子 礼存： 秦野市私立保育園園長会（☆） 串田 浩： 秦野商工会議所 込山 香織： 市民委員 内藤 剛彦： 秦野伊勢原医師会 原 あづさ： 私立幼稚園園長 森田 ミチル： 神奈川県平塚児童相談所 子ども支援第二課長（☆） 山本 啓子： 秦野市PTA連絡協議会（☆） 渡邊 智史： 秦野市学童保育連絡協議会		
欠席者	〔委員氏名〕〔所属団体等〕 石井 則子： 東海大学児童教育学部助教（新規委嘱） 井上 幸子： 市民委員 松原 沙織： 獨協大学経済学部教授		
中座	〔委員氏名〕〔所属団体等〕 内藤 剛彦： 秦野伊勢原医師会		
〔事務局〕 こども健康部長 こども健康部 こども政策課長 保育こども園課長 こども家庭支援課長 こども・若者相談担当課長 こども育成課長 教育部 教育総務課長		〔庶務担当（こども健康部こども政策課）〕 こども政策課 課長代理 主任主事	
議事内容	1 開 会 2 委員紹介・事務局職員紹介		

秦野市子ども・子育て会議（令和6年度 第1回）

	3 会長あいさつ 4 議事 (1) 第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画の令和5年度実施状況及び事前総括について (2) 秦野市こども計画の策定について (3) その他 5 閉会
配付資料	・次第 ・委員名簿 ・【資料1】「第2期子ども・子育て支援事業計画」令和5年度実施状況報告書 ・【資料2】「第2期子ども・子育て支援事業計画」の事前総括報告書 ・【資料3】秦野市こども計画の策定について ・【資料4】秦野市こども計画の骨子案 ・【資料5】教育・保育及び子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策 ・【資料6】秦野市こども計画策定に関するアンケート調査について ・【資料7】秦野市こども計画策定スケジュール <参考資料> ◆第3期秦野市子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査調査報告書 ◆こども大綱（令和5年12月22日閣議決定）〔説明資料〕

[1 開 会]

○事務局

（配付資料の確認）

[2 委員紹介・事務局職員紹介]

委員は五十音順、事務局職員は組織機構順に自己紹介

○こども健康部長よりあいさつ

○事務局

（14名の委員のうち11名の出席があったため、秦野市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを報告）

[3 会長あいさつ]

[4 議事]

(1) 第2期秦野市子ども・子育て支援事業計画の令和5年度実施状況及び事前総括について

○事務局

【資料1】 【資料2】に基づいて説明

○副会長

資料1について、令和4年度と令和5年度を比較すると、評価が「A」に変わっている事業が多いと感じる。例として、基本目標1「養育支援訪問事業」の評価はAだが、課題等の欄に“支援の必要性があるが、利用を希望しない家庭がある”と書かれている。どのような取組を行い、解決し「A」となったのかをお伺いしたい。

○事務局

前回会議で委員の皆さまからいただいたご意見や、私どもが辛口で評価していた点を踏まえ、A評価とさせていただいた。件数・利用者数が目標値に届かなくても、個々の支援を必要とする方への対応やその熱量は、市民に胸を張れるものであると考えた。

○会長

様々な考え方があるが、評価は謙虚で辛口であればよいものでもなく、次年度に自分たちがどのように行動するかの指針になりうるものだと思う。リスクを恐れて問題を起こさぬようにしてばかりいると機能が低下してしまうため、こぞってよい評価にする必要もない。市職員と市民が一体となり、お互いに自分のこととして行動・評価できるのが理想だが、非常に難しい。今回の評価が「A」でも、来年度「D」ということも十分あり得るため、これからの行動とそれに対する評価を見守りたい。

(2) 秦野市こども計画の策定について

○事務局

【資料3】～【資料7】に基づいて説明

○委員

秦野市では市長出席の「地区別市政懇談会」が各公民館で開催されており、私が参加した際、秦野市は「女性と子どもが住みやすいまちづくり」を進めていると説明があった。具体的な施策や考え方、進め方をお伺いしたい。

また、「こども計画」策定に当たっての、現時点での考え方も伺いたい。

○事務局

少子化・人口減少の課題を抱えながら、国の示す「こどもまんなか社会」を目指すうえで、本市では子ども・子育てに特化するだけでなく、女性の働き方の課題解決等も総合的に進めていく必要があると認識している。国のこども未来戦略等で具体策も示されており、それらを着実に進めつつ、市民から寄せられた意見を、秦野市独自の取組として反映できるよう進めているところである。

また、女性の就労支援や子どもの居場所づくり等、今後計画に記載する内容についても、意見を分析しながら盛り込んでいきたい。

○委員

市の計画なので、市職員だけが頑張るのではなく、市内の関係機関にも頑張ってもらえるような内容も盛り込むことができればと思う。

○会長

子ども・子育ての計画には、「子どもを守るだけ」のイメージを払拭するような提案があってもよい。“子ども・子育ての計画は、すべての事と関わっているのだ”という姿勢が示せれば、子どもに対する認識が変わってくると考える。子ども、若者、女性は「助けるべき者」ではなく「中心になってもらうべき存在」と思っている。

例えば、放課後に児童・生徒が立ち寄り、いい意味でガス抜きできる場を設け、そこで地域の人と交流してもらうのはどうか。悩んだり迷ったときに打ち明けたり、悩む時間を過ごせる場があれば、進むべき道を自分で決めていけるようになるのではないかな。

皆さんの生活の中で“こんなことがあったらいいな”という部分が出て、それが組み込まれていくと良いと思う。提案の際には、政策的に行うこと・市民の自由度を上げて行うことを、ある程度の区別をお願いしたい。

市民へ安心感を提供するためには、乳幼児の訪問事業を“秦野市は親子を守りたいから、対象の全戸に訪問いたします”のように決めてしまってもいい。行政で計画を立てるとき、はっきりと宣言することが大事である。

「子育て」は大人だけでは成立しない。子どもたちが本当に話したい事、望んでいることは何なのかを引き出す本来あるべき専門職の配置や養成方針を考えることも大事である。アンケート調査の対象が小5と中2というのも、一番本音を隠したい時期なので、回答内容や回収率が気になっている。

○副会長

アンケート調査は設問が幅広く、深い内容もあった。こども大綱の資料では、「みなさんの意見の主なもの」を読んでいくと、現在の子どもたちが反応する言葉や望むものが垣間見えて興味深い。行政や教育関係者・親は、どうしても「育てる」立場からものを見てしまうので、こういう視点があったのだと気付かせてくれる面でも、アンケート調査結果やこれから行うパブリックコメントは大事になる。そのため、可能な限り多くの回答を回収し、その内容をきちんと反映していく責任も果たしていかなければと思う。

○事務局

市としても回収率は心配しているが、現在少しずつ返送されている状態である。他市町村も同様の調査を行っており、比較が可能である点からも調査対象を小5と中2に設定している。

多くの方が気軽に声をあげていただく場面が必要と感じており、WEBアンケートや日頃子どもたちと関わっている団体へのヒアリングを行い、子どもたち自身の思い・悩み等も拾い上げながら、広く声を聴いていきたいと思っている。

○会長

アンケートは、出てきた数値だけで判断はしないこと。GIGAスクール構想の普及により、現在アンケート等はすべてWEBで行われており、皆がそれに慣れて安易に回答を済ませる児童・生徒もいる。アンケートの結果をどう受け止め、どのような形で反映させるかが大事になってくるため、数値を額面通りに受け取らず、少しひねって見ていただきたい。

○委員

量の見込みについて、第2期の計画値よりも実績値が減少しており、第3期の見込み量はさらに減少しているものがある。計画値と実績値が乖離した理由や、それに対する評価があるはずで、その点も含めしっかり説明することが必要と感じる。また、事前総括報告書の「事業の評価」欄に記載されている内容を見ると、良いのか悪いのか、達成されているのか等がわかりづらいと思う。

○事務局

次期計画に向け、整理していきたい。

○会長

計画策定が始まった当初は、推計の出し方が乱雑であった。その点が修正されたり、推計値の取り方が変わったりして現在に至っているため、計画値と実績値に乖離が生じることもある。今回の見込み量で一番難しいのは、利用率の算出等が困難な若者支援の事業であると思う。秦野市はまだ安定しているが、学童では高学年になると習い事が始まり、利用者が減少してしまうなどの変動が出てきている。県内の保育園・認定こども園では、定員割れも出始めている。状況変化の著しい中では推計値を出すこと自体が非常に難しく、皆さまにも俯瞰で全体の状況を見ていただきたい。

直近だと、厚生労働省から思春期の子の自殺問題対策の要望が出ている。この点を計画に盛り込むかは、事務局で判断いただきたい。

○事務局

同じ部内に「健康づくり課」があり、本市の自殺対策計画を所管している。子どもの自殺が増えている情報も部内共有されており、直結するとは限らないが貧困対策などの有効対策も踏まえ、計画に入れる方向で考え、先のお話も担当にお伝えしたい。

○会長

よろしくお願いします。他に御意見はあるか。皆さまにも常に意識していただくことが重要と思うため、後で何か思いついた場合は、メール等でお送りいただきたい。

打合せの時に、「こども大綱」の内容は、30年以上前の「はだの子ども人権宣言」の内容とほぼ同じだと申し上げた。昔の話をするのは懐古主義ではなく、“未来へつないでいく”という概念が重要と考えている。子どもたちの水先案内となり、秦野で生まれ育って良かったと思ってもらえるまちづくりをしないといけない。この計画は次の子

どもたちへのギフトだと考えており、そういう思考でお願いできればありがたい。
ここで事務局へお返ししたい。

（3） その他

○事務局

次回（第2回）の会議は、令和6年8月23日（金）に開催の予定である。詳細については、改めて御案内したい。

〔7 閉 会〕